



作家
きょう
のぶ
こ
信子さん

■プロフィール
1961年 在日韓国人3世として横浜市に生まれる
1985年 東京大学法学部卒業後、広告代理店に勤務
1986年 夫の出身地である熊本へ「ごく普通の在日韓国人」で朝日ジャーナル賞受賞
1989年 転勤に伴い89年3月まで韓国大田市に在住
1991年 帰国、熊本市に在住
*著書に「かたつむりの歩き方」(朝日新聞社)、「ヨウノブコとカジンジャー二つの名前」(韓国・啓洋出版社)。現在、熊本日日新聞に「姜信子のふつうの眼鏡」、韓国の女性誌「ラベル」にエッセイを執筆中。
また、エフエム中九州「ラジオロロ！」パーソナリティーとしても活躍中。

国際化という言葉はおなじみになつても、語学をはじめ、わたしらちは、どうしても難しく考えがち。それを、「もつとニーアー」になつて、若者に共通の音楽や映画で国境を飛び越えてみたら……と考えたのが、姜信子さんと仲間たち。熊本にいながらにしてアジアの最新情報を取り入れ、かつ発信もするというユニークな活動が、注目を集めています。



エフエム中九州のスタジオで
「ラジオロロ！」収録中の姜さん

「何かをしたい」人たちが集まつた
わたしの家には以前から、異業種交流みたいな形で、サラリーマンや主婦、自由業、フリーランスなど、いろんな人たちが集まっています。
その中で、アジアの「いま」に関心があるという共通点から発展して、昨年七月に台湾映画の自主上映会を開いたんです。きっかけは、「見たいけれど、熊本では上映されない映画」というシンプルな動機。



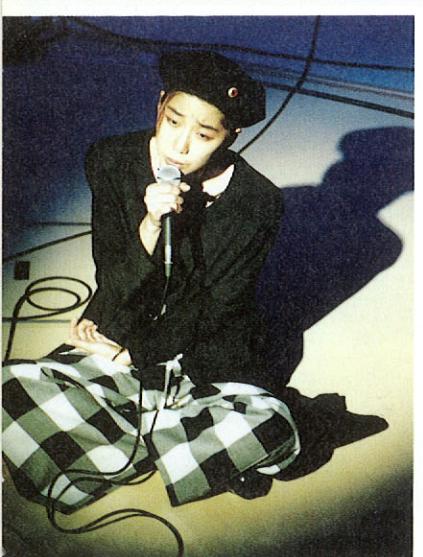
上映会がきっかけで作られるようになった情報紙

從来だったら、「熊本にいなら福岡に行こう」となるんでしょうが、熊本でやろう、と。その結果、「映画以外にもいろんなことができるんじゃないかな」って、気がついたんですね。も

アジアのいまは、教科書ではわからない。 エンターテインメントを通して 最新情報を取り入れたいと思うんです。

ともと「何かをしたい」と思っている人たちの集まりだつたんです。
エンターテインメントなら国境を超える
たとえば、韓国人、中国人、台湾人、日本人と集まりますよね。その際、日本人は言葉が通じたとしても、共通の話題がないんです。だって、いきなり政治経済の話でもないです。ところが、彼らは香港映画やその人気スターの話で、すぐに盛り上がりれる。

教科書だけでは、アジアの今はわかりません。各国に日本と同じような若者文化、娯楽文化があるということを知らないんですね。だから熊本に帰ってきてからも、映画や音楽などのエンターテインメントの部分で、アジアの最新情報を取り入れ、こちらからも発信していくかな、と思ったんです。最近では、「アジアおたく」なんて言われたりしますが(笑)。歴史的に見ても九州に活気があつたのは、中央への一極志向がなかつた江戸時代以前の時期。いま再び、熊本からソウル、香港、東京へと発信し続けていきたいと思っています。



韓国の若手実力歌手イ・サンウンのライブを企画し、話題に。6月にはマルセ太郎の「スクリーンのない映画館」を予定